

こんな理不尽な処分を許せるか

日刊 動労千葉

80.6.3
NO. 445

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
電話 二三八〇九・（公衆）三三二七二〇七

不当処分粉碎！反動秋山局長追放！

五月三十一日国鉄当局が発表した八〇春闘処分とあわせた、動労「本部」反動分子の四・一五津田沼拠点スト破壊襲撃を容認し「職場秩序を乱した」なるデッチ上げをもって、布施組織部長解雇、吉岡教官部長停職十二ヶ月の処分通告、さらに「鉄道学園の授業を妨害した」なるデッチ上げをもって田中青年部長への減給処分通告は、「本部」反動分子のタレコミと処分哀願にこたえて出された、理不尽な選別的な不当処分であり絶対に許すことはできない。全組合員のみなさん。もとより、われわれは生活防衛をかけて闘った八〇春闘に対する不当処分を断乎として弾劾するものであるが、とりわけ「四・一五」を口実とした選別的な不当処分は、当局・「本部」反動分子一体となったマル生をこえる国鉄労働運動史上例のない理不尽極まりない選別的な不当処分である以上、この怒りのすべてを当局・「本部」反動分子にタタキつけよ。こんな理不尽な、汚い処分をどうして許せようか。いまこそ、たぎりたつ怒りをこめて、不当処分粉碎・反動秋山局長追放を闘い抜こう。

異常なまでの政治的意図をもった不当処分攻撃！

今回の選別的な不当処分は、処分理由のデータメ性といえ、処分発表から今日にいたる国鉄当局、とりわけ反動秋山局長の異常なまでの動労千葉敵視の姿勢は許せない。しかしこれも、当局の処分に対する自信のなさと、当局の弱さのあらわれである。

まず第一に、当局は「処分のための処分」を目的化し、「本部」反動分子による四・一五津田沼拠点スト襲撃を容認しつつ「処分哀願」を利用して、動労千葉が「職場秩序を乱した」などとデッチ上げ、それに八〇春闘の指導責任を加えて処分理由にしていることである。

第二に、全国の労働者の動労千葉への選別的な不当処分に対する怒りの決起を恐れて、「七九、八〇春闘処分で解雇なし」等と意図的に宣伝している。

ふざけるのもいいかげんにしろ、七九春闘では中野書記長を解雇処分にし、布施組織部長解雇通告にも八〇春闘の指導責任を挙げているではないか。これが春闘処分でなくてなんであろう。このように今回の処分発表に対する当局の政治的意図につらぬかれた姿勢の中に、動労千葉を軸にした全国の労働者が決起することに恐れている姿をみるこ

とができる。
しかも第三に、今回の処分が国鉄当局・「本部」反動分子一体となったあまりにも動労千葉組織破壊のための選別的、意図的な不当処分であることが社会的にも明らかであるがゆえに、それを隠蔽するために「処分は公平にした」等と記者発表し「本部」反動分子村上に停職一ヶ月の処分通告をしたという。これこそ当局自らが選別的な不当処分



あることを自認したなによりもの証左である。

反動秋山局長を追放せよ！

反動秋山局長よ、自らがとった行為が、社会通念上はもとより当局内にあってもなんの整合性のない処分であることを最もよく知るがゆえに、それらもあえて承知して「本部」反動分子との「関係を保つためのみわが動労千葉に弾圧姿勢をとるならばとるがよい。わが動労千葉千四百組合員はみじんたりとも恐れはしない。マル生闘争、船橋闘争、そして三里塚・ジェット闘争で培った戦闘力・組織性を百パーセント発揮して闘うであろう。すでにその闘いへの序曲は、三十一日のスローガン闘争、二日からの減産闘争、抗議集会で開始された。

全組合員のみなさん。
怒りを爆発させ、粘り強く持続させ、不当処分粉碎、反動秋山局長を追いつめよ。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！